

軽自動車

日本人の生活様式に配慮し、日本独自の規格に基づいて生産されている物の一つに軽自動車が挙げられます。軽自動車は、排気量が660cc以下、全長が3.4m以下、全幅が1.48m以下、全高が2.0m以下、定員が4名以下、そして貨物積載量が350キロ以下という条件を全て満たした車のことです。

軽自動車は、世代や性別を問わず、日本国内で人気の高い自動車のジャンルの一つです。2019年に日本で販売された軽自動車の合計は191万台を越え、乗用車全体の販売台数の36%も占めていることからその人気ぶりを垣間見ることが出来ます。軽自動車の人気の要因は、車両本体価格及び税金、諸経費等の維持費が安いことです。車両価格は車種やグレードによって違いますが、中間グレードなら150万円前後で購入できるのに対し、普通車は200～300万円を超える車種が多いです。

毎年納付しなければならない自動車税はエンジンの排気量で金額が設定されており、普通車なら最低でも三万円近くかかる一方、軽自動車税は一万円ちょっとで済みます。維持費には他に自動車重量税や、各種保険料、車検費用、駐車場代、ガソリン代、高速道路料金などが含まれますが、車重が比較的軽く、燃費も良い軽自動車を持つことは家計への圧迫を減らすのに効果的だと言えます。

軽自動車が人気の理由は他にもいろいろあります。購入者が自分の使い方に合わせて選べる様々なボディタイプや普通車にも劣らない機能性など枚挙に暇がありません。代表的なボディタイプには、スーパーハイトワゴン、ハイトワゴン、セダン、SUV、そして、トラック・バンタイプがあります。スーパーハイトタイプは文字通り、室内高が最も高く、スライド式の後部ドアも装備されていることから、子育て世代に人気の車です。子供が立って着替えられることや、乗り降りする際に隣の車にドアをぶつける心配がないなどのメリットがあります。SUVタイプは悪路走破性が高くなっているだけではなく、オープンタイプや外装が格好いい車種が多

いたため、^{こせい}個性的な軽自動車^{にもつ}がほしい人にぴったりです。トラック・バンタイプは荷物を積みやすいように^{せつけい}設計されているため、^{ゆうそうがいしゃ}輸送会社や^{のうか}農家などの^{ぎょうむよう}業務用に使用^{しょう}されることが多いようです。^{きんねんはつばい}近年発売された軽自動車には、^{しょうとつかけいげん}衝突軽減ブレーキや、^{しゃせん}車線からはみ出さないようにする^{そうさ}ステアリング操作の^{しえん}支援、^{どうろひょうしきにんしききのう}道路標識認識機能などの^{せんしん}先進的な^{うんでんしえんぎじゅつ}運転支援技術^{かずおお}が数多く^{とうさい}搭載され、^{あんぜんせいいう}安全性能にも^{こだわ}拘っています。

軽自動車のデメリットとして、その^{ぶそく}パワー不足がしばしば^{してき}指摘^{かそく}されます。加速するの^{のぼ}に時間がかかったり、^{ざか}上り坂では^あスピードが^あ上がらなかつたりします。しかし、^{さいしん}こういったデメリットは最新の^{ていどおきな}運転支援技術によってある程度^{せま}補われます。軽自動車は^{るじ}狭い^{ちゅうしゃじょう}路地や^{こまわ}駐車場でも^き小回りが^{しがいち}効きますし、^{りべん}市街地を^{ひてい}キビキビ走る^{ひつよう}利便さも^{かてい}否定^{こうきょう}できません。すでに^{こうつうきかん}普通車^{りよう}を持っていて^{せんたくし}セカンドカー^{よろこ}が必要な^よ家庭や、^よ公共交通機関^よの利用が^よメインの人に^よ選ばれる^よことが多い^よことから^よ分かる^よように、^よ軽自動車^よが一つの^よ選択肢^よとしてある^よというのは^よ喜ばしい^よことではない^よでしょうか。

日本^{どくとく}独特^{ふうけい}の風景の一つに、この^{こがた}小型でありながら、^{ほうふ}豊富な^{じゅう}デザインや^{じゅう}カラーバリエーション^{じゅう}を持ち、そして^{じゅう}黄色の^{じゅう}ナンバープレート^{じゅう}をつけて^{じゅう}日本中^{じゅう}を走り回る^{じゅう}軽自動車^{じゅう}があります。このように^{つか}使い勝手^{がって}が^{ばつぐん}抜群で、^{かんきょう}環境にも^{せいひん}やさしい^{せいひん}製品を^{せいひん}どんどん^よに^よ世に^よ送り出^よしている^よ日本は^よ素晴らしい^よと思います。